

千葉県生協連活動報告

12月6日(木)、三井ガーデンホテル千葉で千葉県生協連の主催による2018年度政策検討会が開催され、9会員生協と事務局等合計で67名が参加しました。

開会あいさつ

千葉県生協連 鳥羽会長理事

少子高齢化や世帯の単身化が進む中で、地域での人と人のつながりが薄くなっており、高齢者の暮らしへの不安や子育てに対する不安が高まっています。そのような中、「自分らしく、住みなれた地域で安心して暮らせる地域づくり」に向けて地域の課題、困りごとを知ることや、地域の一員である「私」がどのような地域で暮らしていきたいかを考えることが大切なことだと感じております。本日はグループ交流も通してより一層組合員や地域の方の暮らしに寄り添い、生協だからこそできる取り組みを考える機会になれば幸いです。



司会 首藤専務理事
(千葉県生協連)

当日のプログラム

10:00～開会およびあいさつ

10:05～講演

『緩やかな繋がりで、自分らしく安心して暮らせる地域社会づくり』

11:35～会員生協からの報告

12:15～昼食

12:55～グループワーク

13:55～グループワーク発表

14:05～関谷先生よりアドバイス

14:30 閉会

講演『緩やかな繋がりで、自分らしく安心して暮らせる地域社会づくり』

講師 千葉大学大学院社会科学研究院教授 関谷 昇氏

まず初めに地域における繋がりとは何か？また、なぜ繋がりを作ることを求められているのかをきちんと理解する必要がある。現在、個々の団体がそれぞれ活動をしているが、人口減少や高齢化等で限界が見えてきているので点の活動から面の活動にして横のつながりを持つことが必要である。現在の地域社会は縦割りになり横のつながりが希薄になる中で、自分の生活を守りたいという内向きな考えが強い。そのような中でどのようにつながりをつくるのが大変重要になる。また、国の豊かさだけでなく個々の豊かさを色々な角度から考える必要があることから地域コミュニティが改めて注目されている。

これから問われるのは「緩やかな繋がり」で分野、所属、世代、地域内外が横断する形で、地域の諸資源を生きる力に変えていくことである。緩やかな繋がりをつくるのが地域コミュニティの再生になる。自治は地域住民の参加型のまちづくりが大切で地域の現場から問題を拾い上げて深掘りしながら考えていくことが大切である。その地域にどんな課題や問題があるのかを地域で共有し、具体的な問題や具体的な現実を深めることが重要である。つながりが広がらないのはプロセスにおいて深掘りが不足していることが多い。深掘りをするためには地域のネットワークを活かし共有することが必要である。



(文責：事務局)

会員生協事例報告

- ・生活協同組合パルシステム千葉『行政・他団体と連携した地域づくり支援について』

コミュニティ活動担当課長 山崎裕之さん

- ・生活協同組合コープみらい『緩やかなつながりで、安心して暮らせる地域社会づくり』

組合員理事 佐々木由佳さん

- ・生活クラブ生活協同組合『生活クラブ安心システムで地域貢献
(目の前で困っている人を支えきる)』

理事 山本百合さん

- ・なのはな生活協同組合『子ども食堂と地域の関わり』

理事 山城明美さん

- ・千葉県高齢者生活協同組合『たまり場』の軌跡』

代表理事 西脇悦子さん

グループワーク

グループワークでは自分が住んでいる地域ごとに8つのグループに分かれ、以下の3点を話し合いました。

- ①『地域で自分ができること・してみたいこと』
- ②『地域で生協ができること・生協にしてほしいこと』
- ③『こんな仕組みやネットワークができたらいいな』



グループワーク発表

時間の関係もあり、3グループから話し合ったことを発表してもらいました。主な内容は以下になります。

- ①『地域で自分ができること・してみたいこと』

自分たちの特技を活かした支援、各団体のお手伝い、居場所づくり、子ども支援、学習支援、高齢者の話し相手、散歩がてらの見守り活動、町内会・自治会への参加等々

- ②『地域で生協ができること・生協にしてほしいこと』

生協施設を開放して居場所づくり、食材の提供、フードドライブの取り組みのようにモノを集めること、サロンの開催、既存のサークル活動への助成、スペースの提供、見守り活動、等々

※生協同士で繋がるのが大切

- ③『こんな仕組みやネットワークができたらいいな』

生協の垣根を越えた地域での活動連携・情報共有、地域の方にいずれかの生協に加入してもらい、生協車両で移動のお手伝い、できる事やしてみたい事を色々な団体とつながりたい、イベントなどで地域をつなげる事等々



関谷先生からのアドバイス

最後に関谷先生からアドバイスを頂きました。

「本日の各団体の報告やグループワークの発表を聞いて、いずれも地域の生活課題に目が向けられていて、生協の力でできることを繋ごうとしていることがよく分かりました。以下の3点をポイントとしてお伝えします。」



- ・生協のネットワークをどのように活かしていくか？

個々の団体としての活動をエリアとして共有することで身近な問題や課題が見えてくる。単独の地域では限界があるので広域で連携することが必要になるが、広域的なエリアで連携することで生協が持っているネットワークが活きてくる。生協のネットワークが既存の取り組みを繋ぐことで地域の繋がりを創ることができ、地域の課題を解決することができる。

- ・縦と横のネットワークの交わりの中で課題や問題を深掘りし、情報を発信・共有することが大切。そこを見える化することで新たな活動の担い手や参加者が生まれてくる。地域のために何かできないかと考え、地域に入りたいと思っている企業や個人はいるが、地域の中に入るための入口が見つからない。そのような中で生協のネットワークが橋渡しをすることでができる。
- ・繋ぐことはすぐには実現できないが、丁寧に地域に働きかけることが大切。こちらの価値観を押しつけると反発が生まれるので、一緒に共有したいというスタンスを持ち何ができていて、何ができていないのかを話し合うことが必要。円卓会議のような場で情報を発信し、共有し、そこからどんな事ができるのかを発信することが大切である。生協のネットワークを活かして分野、世代、地域を繋いでいくような方向性を目指してほしい。

参加者アンケートより

1. 今回の政策検討会の講演の内容についての意見・感想

- ・今まで、活動・学習してきた断片が先生のお話を聴くうちに整理され、面につながった感じがした。又、最後に総括していただいだけ、とても参考になりました。
- ・関心に至るまでの発信がされていないというのは耳の痛い言葉でした。
- ・生協のネットワークを活かし、問題を深掘りしていろいろな可能性を考えていくことをこれから取り組んでいけたらと思います。



2. グループワークについての意見・感想

- ・初めてのことで交流含めとても良い時間になりました。生協は違っても「人」に対する想いは共通しているので今後もこのような内容であればと思います。
- ・住んでいる地域をベースに考えることで自分事として話し合うことができました。
- ・皆さんのアイデアも共有させていただき、自身でも考えてみたいテーマを頂戴しました。

3. 今後に向けての要望など

- ・生協間の交流、グループワークは今後、大切になると思いますし、また協同組合間の交流（JA、漁協さんなど）や行政や教育機関との交流も希望します。
- ・他生協さんと話をすること自体とても新鮮で有意義な時間でした。